よむよむ
1・2・3年生の
みなさんへ

紳士とオバケ氏

たかどのほうこ／作
飯野和好／絵
フレーベル館

まじめな紳士マジノ・マジヒコ氏は一人ぐらし。家でもきちんとしたみなりをして、まいばんきっかり十一時にねます。ところがある夜中、ふと目をさますと、へやの中に自分と同じ顔をして白い服を着た人がいるのです！「わたしは、あなたのオバケですぞう～」。

黒いお姫さま

ヴィルヘルム・ブッシュ／再話
佐々木マキ／絵　土田真而子／絵
福音館書店

美しいお姫さまは十五さいになる前日、「あした死ななければならない」と王さまにつげます。そして、まいばんみはりをつけるようにたのむと、本当に死んで炭のように真っ黒になってしまいました。他に十のドイツの昔話がはいっています。

くつなおしの店

アリスン・アトリー／作
松野正子／訳　福音館書店

くつなおしの店の小さなジャック・ドビーは、足のわるい女の子のためにくつを作ってくれるようおじいさんにたのみました。おじいさんは少しのこったかわで小さなくつをつくり、「妖精にぴったり」とまどに下げておくとその夜からふしぎな事が次々とおこるようになります。

ぺちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン／ぶん　さくまゆみこ／訳
トミー・ウンゲラー／え　あすなろ書房

朝おきたら、体の厚さが 1.3 センチになっていた男の子のスタンレー。でも、ぺちゃんこは便利で、大きな封筒に入って航空便で旅をしたり、たこになって空にあがったり、美術館で絵のふりをしてどろぼうをつかまえたりと大活躍します。

でっかいねずみとちっちゃなライオン

イブ・タイタス／文／レオナード・ワイズガード／え
光吉夏弥／訳　大日本図書館

妖精の魔法にかかった子ねずみとライオンは、人間の目には、ねずみは大きく、ライオンは小さく見えるようになってしまいました。そんな2匹に出会った人間たちはびっくりぎょうてんです。

しろばらとべにばら

ワンダ・ガアグ／再話　やまうちふじえ／え
かみじょうゆみこ／やく　福音館書店

べにばら、しろばらという女の子の家に、寒さにこごえた大きなクマがやってきます。はじめはこわがる二人でしたが、やさしいクマとすぐになかよしになりました。けれど、このクマは、大きなひみつをもっていたのです。

海べのあさ

ロバート・マックロスキー／作
石井桃子／訳　福音館書店

サリーはある朝、歯が一本ぐらぐら動くことに気がつきます。お母さんは、おとなの歯がはえてくること、ぬけた歯をまくらの下に入れるとおねがいがかなうことを教えてくれました。海べの家族の楽しい1日がはじまります。

あたまをつかった 小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル／作
山脇百合子／絵　松岡享子／訳　福音館書店

おばあさんは、さむい冬がくるので、あたたかい羽ぶとんがほしかったのですが、ねだんが高くて買えません。そこで、市場でがちょうを 12 羽買って、羽ぶとんをつくることにしました。シリーズのある本です。

やぎのグッドウィン

ドン・フリーマン／さく
こみやゆう／やく　福音館書店

やぎのグッドウィンには、飼い主のマックダフさんも知らない秘密がありました。それは、おいしそうなごみをさがしてくちゃくちゃかむことでした。ある日、草原でカラフルな絵の具のチューブをみつけて飛びつきました。